

災害時の保健活動を考える

～都市部被災者支援から見えてきたもの～

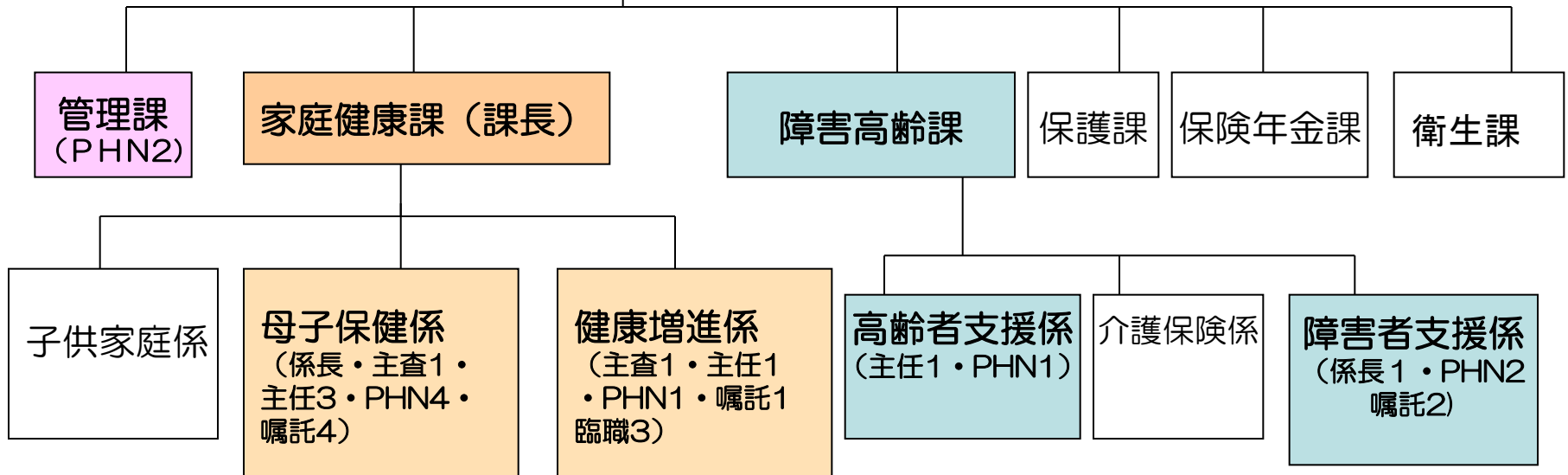


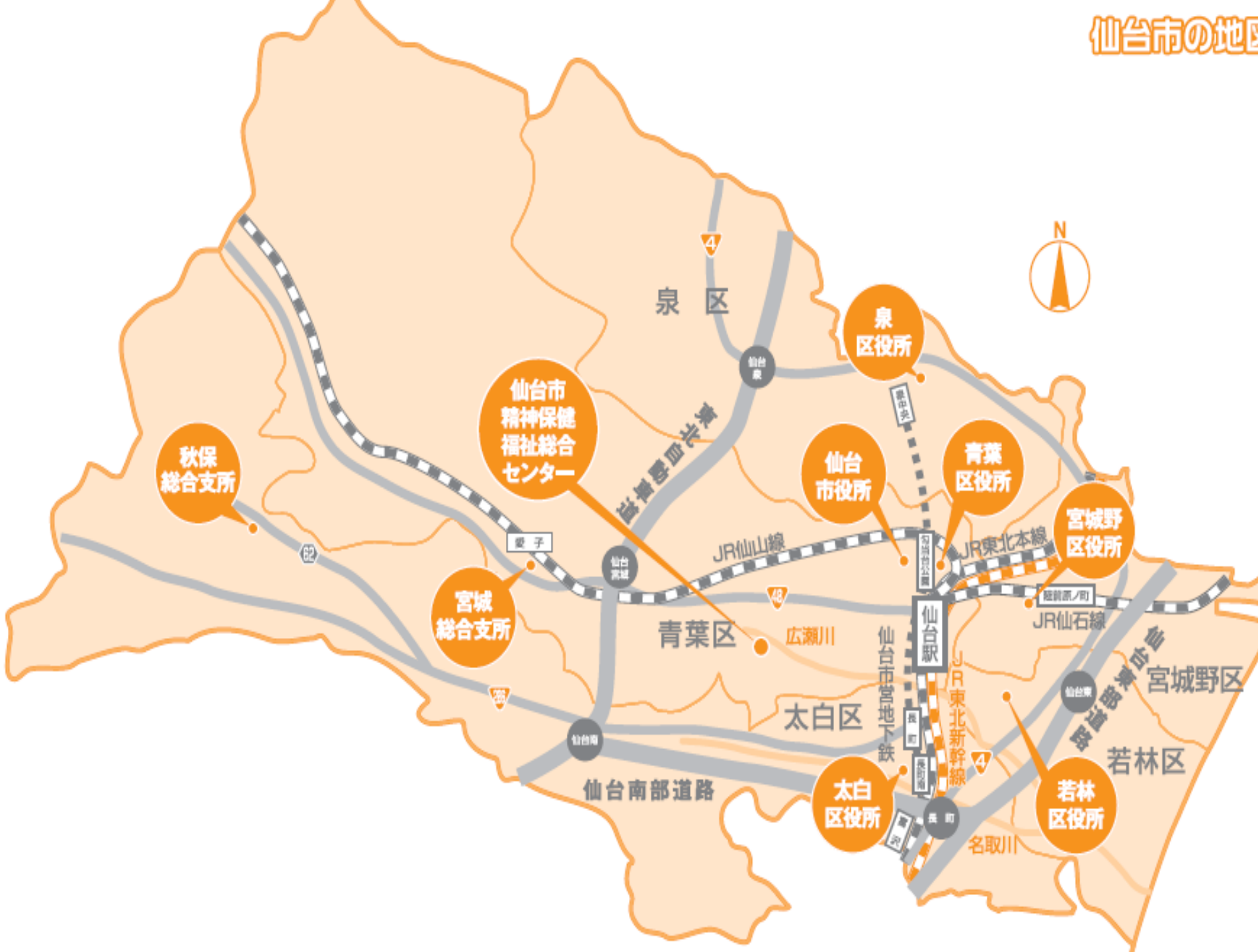
仙台市太白区家庭健康課
木村 ミカト

〔区民部〕

総務課
まちづくり推進課
区民生活課

太白区保健福祉センター





泉区

泉区役所

秋保
総合支所

仙台市
精神保健
福祉総合
センター

仙台湾沿岸道路

仙台市役所

青葉区役所

宮城野区役所

宮城
総合支所

青葉区

広瀬川

JR仙山線

JR東北本線

JR仙石線

宮城野区

太白区

太白区役所

若林区役所

若林区

仙台南部道路

仙台駅

JR東北新幹線

名取川

仙台湾沿岸道路

地震概要(気象庁)

発生日時：平成23年3月11日14:46頃

規模：マグニチュード9.0（暫定値）

市内震度：震度6強 宮城野区

震度6弱 青葉区 若林区 泉区

震度5強 太白区

津波：仙台港 7.2m（推定値）

仙台市内の被害状況

人的被害

死者 704名（太白区52名）

行方不明者 26名

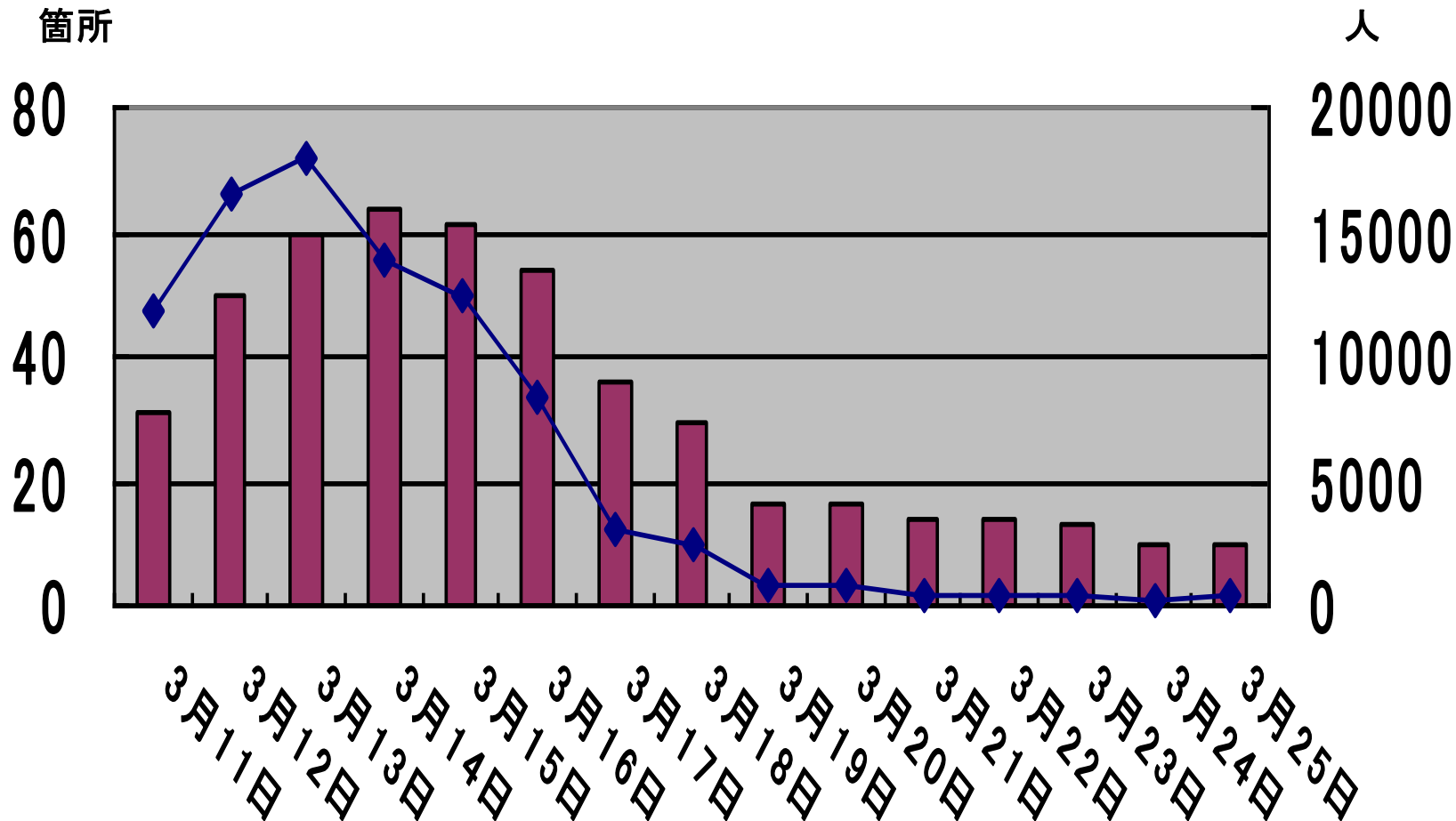
負傷者 2,269名

建物被害

全壊 28,702棟 大規模半壊 24,661棟

半壊 69,763棟 一部損壊 10,328棟

太白区避難所の状況



避難所数 ◆ 避難者数

●避難所：被災者の状況

初期

- ライフラインが復旧するまでの避難
- 一人自宅にいるのが怖くて帰れない人
- 車中泊

- 旅行者・ホームレス
- 乳幼児⇒別室の設置
- 認知症など、集団になじめない人
⇒福祉避難所の調整

●避難所：運営状況

- 避難所運営に地域温度差あり
※学校教職員と寄せ集めボランティアで運営していたところも。
- 指定避難所以外の会場への巡回
※市民センター、コミュニティーセンター、集会所など
- 近隣医師の巡回診療 ありがたかった！
- 歯科医師（個人ボランティア）の巡回診療
- 自宅被災者への食事の配給
※避難所によって異なり、苦情がでた地域もあり。

●避難所：保健活動状況

- 巡回健康相談（区保健師、他県応援保健師）
3月14日～
- 介護予防のための運動（健康増進センター）
3月17日～
- 食事内容調査と栄養の偏りに対する支援（栄養士）
3月28日～
- 口腔ケア（歯科医師・歯科衛生士）
3月19日～
- こころの相談（こころのケアチーム）
3月20日～

●避難所：集約後の課題

- ◆最後まで残る人たち（独居高齢者、障害者、住所不定者など）の処遇

帰れない人と帰らない人

- ◆人付き合いの下手な人たちの集団

役割を得ることでの自己実現と周囲とのトラブル

●在宅被災者個別訪問

- N地区の65歳以上独居高齢者、高齡世帯の訪問（1,095件）
 - ⇒避難所の避難者が一番多かった地域
 - 町内会活動が脆弱、マンション暮らし
- 地域包括支援センターへの引継ぎ
- 新任保健師教育としての活用
 - 先輩保健師と同行訪問



●在宅被災者：高齢者の状況

- 身内に引き取られている独居高齢者
- 民生委員や地域包括支援センターの関わり
- 震災をきっかけに掘り起こされた人
- 市民の声

行政への不満（若干）

津波地域に比べれば大したことはない

戦争だって乗り越えてきた

初めて来てくれた市職員

●現在の被災者支援

◆あすと長町プレハブ仮設住宅 226世帯

市内浸水地域、石巻、南相馬、山本、名取など各地から

◆西中田市営住宅 26世帯

南相馬、亘理、市内など。障害者多い。

◆NTT社宅 八木山南 42世帯

三神峰 38世帯

南相馬、市内太白区（八木山・緑ヶ丘）が多い。

◆民間賃貸住宅

市外からの入居者約半数。そのうち南相馬からが4割。

●プレハブ仮設住宅

市内最初の
プレハブ仮設住宅

マスコミの注目

イベント、支援物資
の集中



様々な地域からの入
所者

入居者組織発
足の遅れ

PSC (NPO)
との関係性

高齢者の閉じこ
もり

独居男性の食事の問題





●仮設住宅:トラブル

- 入居者同士のトラブル
 - 半年過ぎくらいから顕在化
 - ・アルコールの問題
 - ・騒音の問題
 - ・入居者グループとの関係
 - ・関係性をとりづらい人々
- 行政への要望・要請の加速化
 - ・トラブルへの対応

●仮設住宅： アルコール問題への対応

- ・精神保健福祉総合センター（はあとぽーと）との
同行訪問
- ・従事者研修⇒支援者間のネットワーク第一歩
※ PSC、社協、包括支援センター、民生委員、区民部、
保健福祉センター
- ・困難ケースのスーパーバイズ（T病院協力）

今後・・・

健康相談

サロンなど集える場の設定

傷ついた人たちが話せる場

●仮設住宅対策

- 運営委員会との定期的会議
- 区民部：集会所に常駐職員
夜間・休日の警備員の配置
住宅や敷地内の補修
- 保健福祉センター：
訪問健康相談（5月～） 運動教室（8月～）
男性クッキング（9月・10月）
情報誌配布（7月～） 歯科巡回相談（1月～）

●市営住宅・社宅等：被災者の状況

- 市営住宅：もともとの住民との交流
福祉委員からのお叱り

- 社宅：
丘陵地区住民の苛立ち
ペットの問題
近所トラブル(若干)



●市営住宅等：対策

- 区民部：
 - ・ 入居者説明会
 - ・ 町内会、社協等との顔合わせ
- 保健福祉センター：
 - ・ 全戸訪問⇒高齢者の閉じこもり
 - ・ 情報誌配布
 - ・ P S Cとの情報交換

今後、社協やPSCとサロン、健康相談予定

既存の組織との調整

長期的な地域支援

●民間賃貸住宅

市内浸水地域からの被災者

入居者数	訪問支援対象者	支援者	
		区保健福祉センター	看護協会委託
175	109	36	73

市内浸水地域以外からの被災者

入居者数	緊急度AA,A	緊急度B
1077	117	541

※緊急度大[AA,A]重複した問題をかかえて調整が必要な世帯

喪失体験等で生活上問題があり、関係機関につなげる必要がある世帯

緊急度中[B] 高齢者、障害者、乳幼児がいる世帯、心身の健康上の問題があると記載があった世帯等

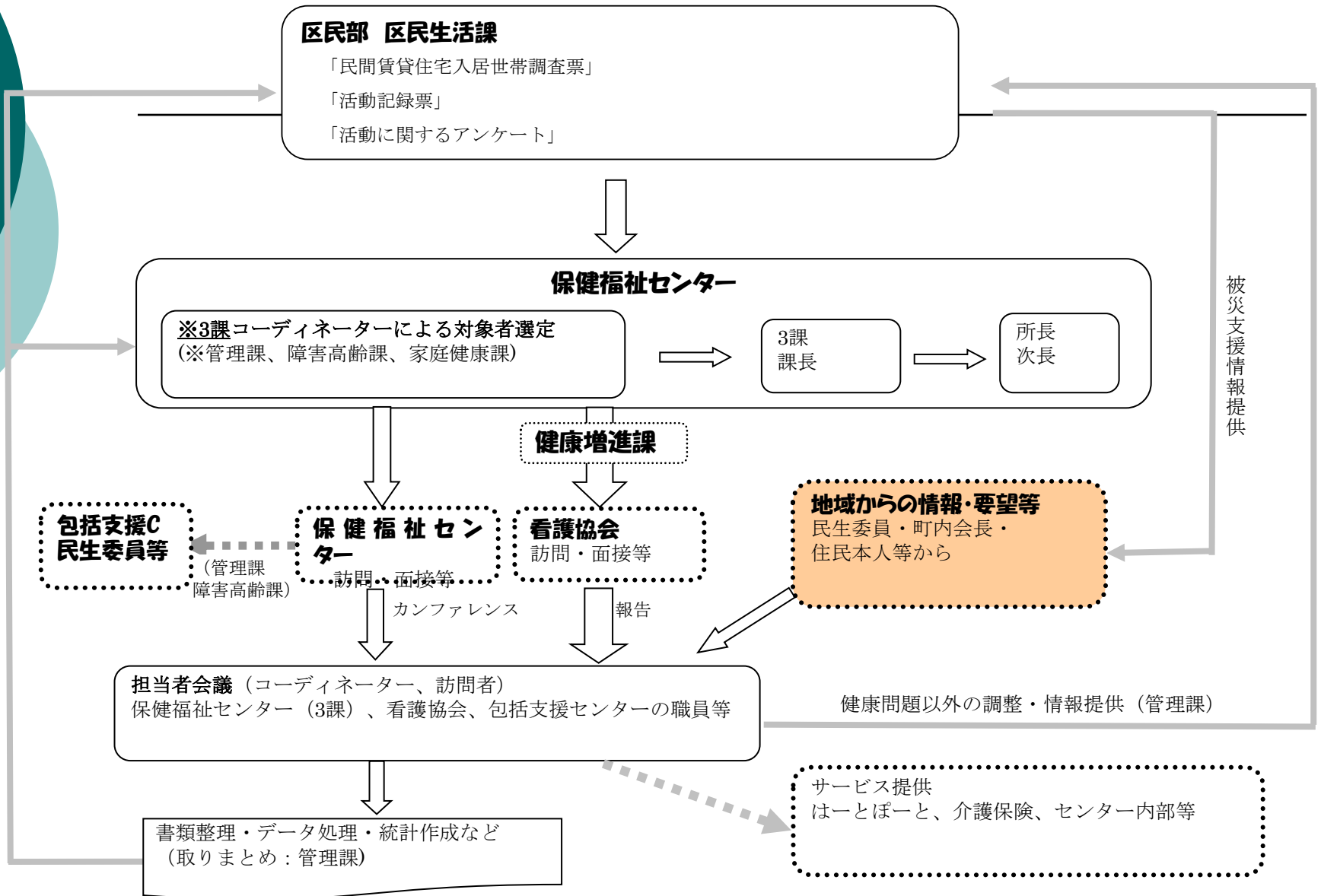
●民間賃貸住宅：被災者の状況

- 自力で住居を探して手続きできる人、経済的基盤のある人が多い。
- 支援物資が配布されないことへの不満
- 情報が届きにくい
- 仮設と違って見えない空間
- 高齢者の役割の喪失（することがない毎日）
- 地元の人がどこに住んでいるかわからない

●民間賃貸住宅：支援状況

- AA（緊急ケース）～Bまでランク付けして訪問
- 区の事務部局と共同訪問
- 保健福祉センター各課との連携体制整備
（ケースカンファレンス、ケース管理）
- 困難ケース以外は看護協会訪問に委託
- 子育て支援

民間賃貸住宅訪問調査後の対応フロー



●民間賃貸住宅：課題と対策

- 区民部との温度差がある
- 「気になる人リスト」の作成と活用
- 個のニーズを拾い上げて線や面につなげる支援に
 - ⇒ 社協と共催で出身地別交流会の開催予定
 - ⇒ 母子は「のびすく仙台」と共催で子育て支援

●今後の被災者支援の方向性

- アルコール問題への対処
- 孤立、抑うつ、心の問題への支援
- 被災者の自立支援に向けたアプローチ

組織として

- 健康課題にあわせた柔軟なチーム編成
- 区内や他関係機関との連携による一体的な生活
再建支援
- 地域で支える体制づくり

●被災者支援を通じて感じたこと

- 「組織で仕事をするということ」の頼もしさと
もどかしさ
- 個人情報保護の壁に苦しんだ半年
- 寄り添って「待つ」ことのできる支援者になろう
- コミュニティの再生って口で言うほど簡単じゃない！
- 誰のための支援か。原点に立ち返ろう。